

令和元年度決算における普通交付税の宝塚市と伊丹市との対比と
交付税の差に関する分析結果について

企画経営部財政課

総括

(単位:千円)

	宝塚市	伊丹市	比較
基準財政需要額 ①	32,330,722	31,584,975	745,747
基準財政収入額 ②	28,434,956	25,974,556	2,460,400
交付基準額 ①-②	3,895,766	5,610,419	▲ 1,714,653
臨時財政対策債振替相当額	3,196,065	2,620,611	575,454

普通交付税	3,865,644	5,582,602	▲ 1,716,958
特別交付税	380,542	468,064	▲ 87,522
交付税 計	4,246,186	6,050,666	▲ 1,804,480
臨時財政対策債	3,196,065	2,620,611	575,454
合 計	7,442,251	8,671,277	▲ 1,229,026

■伊丹市との普通交付税の差について

基準財政需要額が伊丹市より745,747千円多いのに対し、
基準財政収入額は伊丹市より2,460,400千円多いことにより、
交付基準額(基準財政需要額-基準財政収入額)が伊丹市より
1,714,653千円少なく、交付額においても1,716,958千円少なくなっている。

特徴としては、
市民税均等割(法人分)と法人税割の合計は伊丹市より583,980千円少ないものの、
市民税均等割(個人分)と所得割の合計は伊丹市より3,637,958千円多いこと等により、
基準財政収入額全体においても伊丹市より多くなっている。